

独立行政法人農業技術研究機構の平成14年度に係る業務の実績に関する評価結果

農林水産省独立行政法人評価委員会農業技術分科会

1 総合評価

(1) 評価ランク A

(2) 評価に至った理由

「業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置」、法人の主要な業務である研究開発を含む「国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置」、「予算（人件費の見積りを含む。）収支計画及び資金計画」、「重要な財産を譲渡し、または担保に供しようとするときは、その計画」及び「その他農林水産省令で定める業務運営に関する事項」すべてについて、中期計画の達成に向けて業務は順調に進捗していると判断し、Aと評価した。

(3) 総合所見

独立行政法人農業技術研究機構は、我が国の農業技術開発の中核機関として、土地利用型農業、園芸及び畜産分野を中心とした専門研究、各地域での総合的な研究による農業現場での実用化に向けた技術開発、安全性の確保に配慮しつつ先端研究の成果を活用した革新的な技術開発を推進することが求められている。独立行政法人への移行2年目にあたり、独法制度の利点を活かし、業務全般の効率化を一層進めることが期待される。このような観点から、平成14年度の業務の実績について調査・分析し、評価した結果は以下のとおりである。

主要な業務である研究開発については、「食と農のビジネスチャンスを開く新食材と花の技術開発」など5つの研究開発ターゲットを掲げ、予算及び研究者の6割強を投入する等、当該年度における研究の重点化方向を明確にした上で、これに沿って研究が推進されている。研究成果については総じて実績があがっており、業務は順調にすすんでいると判断する。環境保全型農業に関する技術開発については、「熱土壌消毒法」の確立等13年度に比較して改善が認められる。また、BSE対策等食の安全性や食品の機能性等国民の関心事に対しても誠実に対応してきた姿勢を評価する。今後は、ターゲットの選定にあたって、幅広い視点にたって選択するとともに、選定の理由を明示することで国民的理解がさらに得られるよう工夫する必要がある。また、研究課題に応じた都道府県、大学との協力を一層推進し、研究の加速化を図るべきである。さらに、地域の個性を活かす農業技術体系の確立研究においては、今後とも十分な対応が望まれる。

管理・運営については、理事長のリーダーシップに基づき、政策的に緊急度が高い「大豆300Aセンター」や「プリオン病研究センター」の設置等機動的な組織対応を実施し、独法の機能を活かした運営が行われている点は評価される。今後は、監事の視点を明確にして、その存在を活かすことが期待される。成果の公表、広報、外部に対する技術相談等社会貢献の観点からも十分な取り組みが行われた。特に「ブランドニッポンを試食する会」などは、消費者と実需者を意識してわかりやすく研究成果の公表・広報をすすめた点で評価される。競争的資金についてみれば、応募、獲得状況とも前年度を上回る結果となっているが、さらに一層の努力が望まれる。今後は、業績評価の処遇や資源配分等への反映についてさらに検討する必要がある。

業務運営については、経費節減のほか、効率化の運営の努力が認められるが、さらに、自己収入の増加に努めるとともに、効率化に向けた法人の姿勢や、効率化で得

られた資源の活用とその効果が研究開発業務の質の向上に寄与するよう努め、業務が効率的に運営されている実態がよりわかりやすく表現されるよう、運営費交付金、受託費等の研究財源及び研究項目ごとに、予算・決算（人材等研究資源の投入の計画と実績を含む。）などを表す内部計数の管理並びにその状況について一層の整備が期待される。

2 各大項目ごとの評価

業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

評価ランク A

評価に至った理由及び所見

業務は順調に進捗している。とくに法人による研究及び管理運営に関する自己点検評価を反映しつつ、理事長のリーダーシップに基づき、政策的に緊急度が高い「大豆300 A研究センター」や「プリオン病研究センター」の設置等機動的な組織対応を実施し、独法の機能を活かした運営が行われている点は評価される。競争的資金についてみれば、応募、獲得状況とも前年度を上回る結果となっているが、さらに一層の努力が望まれる。今後は、研究職員の業績評価については、処遇や資源配分等への反映方法についてさらに検討すべきである。また、支援職員のインセンティブを考慮し、研究遂行上の役割を明確にしつつ、その効率化についての取り組みを強化する必要がある。さらに、管理事務業務の効率化を一層進め、企画調整、知的所有権等の研究支援体制及び研究業務の強化に期待する。

項目ごとの所見は以下のとおりである。

『1 評価・点検の実施』

法人による研究及び管理運営に関する自己点検評価の結果が、「大豆300 A研究」、「プリオン病研究」等の重点化へ反映されており、「大豆300 Aセンター」や「プリオン病研究センター」の設置等理事長のリーダーシップに基づいて早急な対応がなされた点は評価される。研究職員の業績評価の結果は、昇格の参考資料として利用されているが、業績評価の処遇や研究費等資源配分への反映についてはさらにシステムの改良を検討する必要がある。

『2 研究資源の効率的利用』

競争的資金の申請件数及び獲得額は前年度を大きく上回っている。しかし、一人あたりでみた場合の件数、金額ともまだ少なく、一層の努力が必要である。研究の外部機関への委託については、資源の効率的利用の分析が必要である。オープンラボの効率的な利活用により、地域の中核機関としての役割を一層強化することが必要である。

『3 研究支援の効率化及び充実・高度化』

知的所有権に係る業務や情報収集提供等の体制が着実に強化されている。支援職員のインセンティブを考慮し、支援職の研究開発における役割を明確にしつつ、支援業務の効率化についての取り組みをより一層強化する必要がある。

『4 連携、協力の促進』

他の独法等との連携協力による共同研究が積極的に進められている。今後も大学や都道府県の試験研究機関等との協力分担や産学官連携の充実が求められる。

『5 管理事務業務の効率化』

改善が進められており、業務は順調に進捗している。今後は、管理事務業務の効率化を一層進め、企画調整、知的所有権等の研究支援体制及び研究業務の強化

に期待する。

『6 職員の資質向上』

国内留学、各種研修への積極的な参加を奨励しており、業務上必要な資格取得を支援し、より一層の職員の資質向上に期待する。

国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

評価ランク A

評価に至った理由及び所見

5つの研究開発ターゲットを掲げることにより、当該年度における研究の重点化方向を明確にした上で、これに沿って研究が推進されている。課題により進捗状況に遅速があるが、総じて実績があがっており、業務は順調に進捗している。また、BSE対策等食の安全性や食品の機能性等国民の関心事に対しても誠実に対応してきた姿勢を高く評価する。成果の公表、広報、外部に対する技術相談等社会貢献の観点からも十分な取り組みが行われた。ターゲットの選定にあたっては、幅広い視点にたって選択するとともに、選定の理由を明示することで国民的理解がさらに得られるよう工夫する必要がある。

項目ごとの所見は以下のとおりである。

『1 試験及び研究並びに調査』

「 1 A 農業技術開発の予測と評価手法の開発研究」については、業務は順調に進捗している。

「 1 B 多様な専門分野を融合した総合的な研究」については、業務は順調に進捗している。トリプトファン高含量の形質転換体イネの育成が実用化の直前まで進行しているなど、計画を大きく上回る業績が得られている。

「 1 C 共通専門研究・中央地域農業研究」については、業務は順調に進捗している。とくに、「 1 C 12) 良食味・高品質米の高エネルギー・低コスト生産のための基礎研究の推進」では先導的な研究がなされており、着実な成果が得られている点で高く評価される。

「 1 D 北海道農業研究」については、業務は順調に進捗している。中でも、「 1 D 3) 寒地に適応した優良作物品種・系統の育成」における優良品種の育成、「 - 1 - D - 7) 作物の耐冷性・耐寒性・耐雪性機構の解明と利用技術の開発」において低温ストレス応答に対するトレハロースの関与を明らかにした点は高く評価される。

「 1 E 東北農業研究」については、業務は概ね順調に進捗している。しかし、「 1 E 1) 東北地域の立地特性に基づく農業振興方策の策定並びに先進的な営農システム及び生産・流通システムの確立」では、進捗にやや遅れがみられる一部研究課題や、生産現場へのフィードバックについて、取り組み強化が必要である。また、「 - 1 - E - 5) 寒冷地における高品質畜産物の自然循環型生産技術の開発」では実用技術としての成果が望まれ、「 - 1 - E - 7) やませ等変動気象の特性解析と作物等に及ぼす気象影響の解明」については、課題間の連携を図るとともに、地域の農業への寄与をめざして研究を加速化する必要がある。

「 1 F 近畿中国四国農業研究」については、業務は順調に進捗している。中でも、「 1 F 3) 高付加価値化、軽労化等に対応した作物の開発及び高品質・安定生産技術の開発」における、作物の高付加価値化にむけた育種関連の研

究は高く評価される。

「 1 G 九州沖縄農業研究」については、業務は概ね順調に進捗している。中でも、「 1 G 8) 暖地多発型の難防除病害虫の環境保全型制御技術の開発」は、防除技術の開発を目指す研究の一方、性決定や生態にかかわる興味深い基礎研究を両立させている点で高く評価される。一方、「 1 G 4) 暖地における物質循環型・高品質畜産物生産技術の開発」については、物質循環に視点をおいた研究の推進が必要である。

「 1 H 作物研究」については、業務は概ね順調に進捗している。中でも、「 1 H 3) 麦類の先導的品種育成、遺伝・育種研究及び栽培生理・品質制御技術の開発」において、タンパク質含量がより高く、中華めんにも適する小麦品種「タマイズミ」を育成した点は評価される。

「 1 I 果樹研究」については、業務は順調に進捗している。中でも、「 1 I 2) 消費者ニーズに対応した品質・機能性・貯蔵性の向上技術の開発」における果実の機能性の解明は消費拡大につながる成果として評価される。

「 1 J 花き研究」については、業務は順調に進捗している。特に「 1 J 1) 新規性に富み付加価値の高い花きの開発」においては、各課題とも着実に成果が得られている。今後は、更に成果の出口を明確にし、産学等との連携を図りつつ、研究を強化する必要がある。

「 1 K 野菜茶業研究」については、業務は概ね順調に進捗している。中でも、「 1 K 10) 流通・利用技術を支える基礎的研究」においては茶の機能性について優れた研究成果が得られており、高く評価される。しかし、「 1 K 7) 消費者ニーズに対応した野菜の高品質生産・流通技術の開発」における高品質・流通加工適性育種素材の開発については、研究を一層加速する必要がある。

「 1 L 畜産草地研究」については、業務は概ね順調に進捗している。「 - 1 - L - 1) 優良家畜増殖技術の高度化」における体細胞クローン牛に関する研究の進展、「 - 1 - L - 2) 家畜栄養管理技術の精密化」における飼料用の肉骨粉の検出手法の開発研究は、特筆されるべき成果である。しかし、「 1 L 3) 省力・低コスト家畜管理技術の高度化」や「 - 1 - L - 9) 自然循環機能を利用した持続的草地畜産のための草地生態系の解明」の一部の課題では実用技術に結びつけるための研究の進捗がやや遅れている。また、「 1 L 10) 資源循環を基本とする自給飼料生産・家畜管理システムの高度化」においては、資源循環の視点からの検討が期待される。

「 1 M 動物衛生研究」については、業務は概ね順調に進捗している。とくに、「 1 M 6) 飼料・畜産物の安全性確保技術の高度化」における大腸菌O157排菌制御研究は評価される。ただし、「 1 M 5) 生産病の発病機構の解明と防除技術の開発」では、栄養素の体内代謝に関する研究については取り組みが望まれる。

「 1 N 遺伝資源の収集、評価及び保存」については、業務は順調に進捗している。

「 1 O 公立試験研究機関等との研究協力」については、業務は順調に進捗している。

『 2 専門研究分野を活かした社会貢献』

BSEを最終的に確定診断することができる国際研究機関として、国際獣疫事務局より指定を受けるため、国際リファレンスラボの申請を行ったことは評価される。研修生等の受け入れについては連携大学院方式での若手研究者の育成等、教育との

接点を重視する必要がある。技術相談についてもより一層きめ細かな対応が望まれる。

『3 成果の公表、普及の促進』

普及に移しうる成果、論文数等の項目で中期目標の達成に向けて十分な実績をあげており、業務は順調に進捗している。成果の公表、広報、外部に対する技術相談等社会貢献の観点からも十分な取り組みが行われた。とくに、「ブランドニッポンを試食する会」などは、消費者と実需者を意識してわかりやすく研究成果の公表・広報をすすめた点で評価される。知的所有権の活用については、さらに一層の利活用が図られるよう、研究開発の段階からこれに向けた努力が求められる。研究成果の普及については、都道府県の普及部局との連携や、民間企業・団体との交流等地域ごとの独創的な取り組みが必要である。

予算（人件費の見積りを含む。） 収支計画及び資金計画

評価ランク A

評価に至った理由及び所見

経費節減を含め、効率的運営についての努力が認められるとともに、これらが国民にわかりやすい形で会計上表現され、論理的に説明されるよう工夫がなされつつあることを勧奨し、Aと評価した。ただし、節減額の特定テーマへの追加配分に関し、その達成度に対する影響をより明確にする等、効率化で得られた資源の活用とその効果が国民にわかりやすく表現されるよう、運営費交付金、受託費等の研究財源及び研究項目ごとに、予算・決算（人材等研究資源の投入の計画と実績を含む。）などを表す内部計数を管理できる工夫が望まれる。

短期借入金の限度額

評価ランク A

評価に至った理由及び所見

国家公務員災害補償法に基づく、互助会からの一時借入であり、年度内に完済した。

重要な財産を譲渡し、または担保に供しようとするときは、その計画

評価ランク A

評価に至った理由及び所見

土地の譲渡は地方公共団体からの要請に基づくものであり、平成 14 年 7 月に開催された独立行政法人評価委員会農業技術分科会において認めた通り問題なく執行されている。

その他農林水産省令で定める業務運営に関する事項

評価ランク A

評価に至った理由及び所見

計画に対して順調である。採用については、研究所の主体性を発揮できるシステムを導入し、改善にむけた工夫が行われている。また、研究部長を原則公募とした点は、組織を適材適所で運営していく上で有効な制度であり、評価できる。

項目ごとの所見は以下の通りである。

『 1 施設及び設備に関する計画』

業務は順調に進捗している。

『 2 人事に関する計画（人員及び人件費の効率化に関する目標を含む。）』

採用予定ポストの公表と、研究所での業務説明の実施等研究所の主体性を発揮できるシステムを導入し、改善にむけた工夫が行われている。また、研究部長を原則公募とした点は、大学等に広く人材を募集できるほか、研究所内に対してもインセンティブを与える結果につながるとみられ、組織を適材適所で運営していく上で有効な制度であり、評価できる。ただし、公募制については、外部からの人材登用の積極的な推進に向け、さらに募集方法等を検討する必要がある。

（参考）本評価において用いた評価ランクは以下の3段階である。

- A：計画に対して業務が順調に進捗している
- B：計画に対して業務の進捗がやや遅れている
- C：計画に対して業務の進捗が遅れている